

車 ten 云 2 糸 ketsu 吉

Twitter novels



novel
6key

.....

illust
ziboa

Twitter

140文字で「いま何してる？」を
呟くWebサービス。

Twnovel

おもにハッシュタグ #twnovel で投稿されている、
140文字（ハッシュタグの文字数を差し引けば132文字）で
一作品が完結している小説。

缶詰

fresh meat

朝、缶詰が枕元にあった。開いた中身は愛用の目覚まし時計。

二日目の缶詰には、彼女がくれたぬいぐるみが

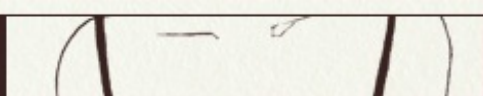
ぎゅうぎゅうに押し込められていた。

「なーに、その怪現象。あたしも見たい」

そう言って彼女が泊まった翌朝、隣にその姿がない。

三日目の缶詰は、これまでより少し大きかった。





夜な夜な

triangle

毎晩、枕元に女の子が立ち、
じっと俺の顔を覗き込んでくる。
俺は金縛りで声すら出せない。

あるとき、どうにか声を振り絞って
「白！」と叫んだ。
女の子は俺を睨みつけながら、
すうっと消えた。

次の晩も彼女は枕元に立ったが、
今度はスカートではなく
パンツルックで現れた。

いかないで

affection

祖母いわく、僕の首に長い髪が巻き付いてるという。

「お前の結婚を望まぬ女の生霊かね」

毎夜うなされる理由が分かった。

しかし黒髪の女から恨みを買うような覚えはない。

ため息ながらに帰宅すると、猫が出迎えてくれた。

黒く艶やかな尻尾を揺らしながら、

僕を見上げてひとつ鳴いた。

131 letters





君がいない朝

she's gone to somewhere

彼女が泣き出すのは、決まって月の明るい夜だった。

ここじゃない、違うのと子供のようにしゃくり上げる彼女の背中を、

僕は泣き止むまでさすり続けた。

ある朝目覚めると彼女の姿がない。

ニュースでは、人身事故による電車の遅延と、

都内上空の飛行物体が突如消失したことを報じていた。

132letters



涙の理由、微笑みの理由

alone in the inferno.

彼女と二人、灼熱地獄に落ちた。

生前流した涙の分だけ水が入っております。

鬼がそう言って水筒を配る。

渴いて死ねば次は無間地獄だという。

僕の水筒がすぐに尽きると、彼女は自分の水筒を渡し、微笑みを残して消えた。

僕が彼女の名前を忘れ、声を忘れても、水筒の水は未だ涸れない。



運転手が乗客を指差して数えながら、真っ暗な車内を歩いて来る。

寝たふりをする僕の前で「一人」と呟くと、運転手は席へ戻っていった。

老若男女これだけ乗ってるのに、何故僕のときだけ？

そこで気がついた。

寝息が一つも聞こえない。



夜行

the coffin moves at night.



桜

*waiting for you
at the place we promised.*

十年後の同じ日、校庭の桜の木の下で会おうね。
そう誓って別れた卒業式。
きっと貴方は忘れてしまう、
そんな不安と闘いながらずっとその日を待ち続けた。
そして約束の日、貴方は来た。
私は泣きたいほど嬉しかった。
しかし再会は叶わない。
私は貴方の足の下。二ヶ月前から土の中。

ギターコードと水掻き

i m a g i n e

浜辺で彼女にギターを教える。

「FとGが難しいね」

「仕方ないよ、その手じゃ」

恨めしそうに水掻きを覗む彼女。

「お手本見せて」とギターを渡してきたので、

僕はイマジンを弾き始める。

これ好き、と呟いて彼女が歌い出す。

かつて多くの船を惑わし

沈めてきた歌声が、潮騒と重なった。



131 letters

ロキオ
6key

http://twitter.com/6th_key

千賀史貴
ziboo

<http://ziboabiboo.jp/>



車云糸吉 2 【テンケツ 2】 Twitter小説集

<http://p.booklog.jp/book/32169>

【第1弾 <http://p.booklog.jp/book/27005>】

著者：6key(ロキオ)&千賀史貴(ziboa)

6keyプロフィール：<http://p.booklog.jp/users/6key/profile>

千賀史貴(ziboa)【ziboabiboo】<http://ziboabiboo.jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32169>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32169>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.